

かお・人インタビュー

28年7月26日(火)

循環型社会の形成に貢献する 植物誘導研究会

松本 信夫会長 に聞く



地域生態系の保全に配慮した法面緑化工法の技術研鑽と市場開拓に取り組む「植物誘導研究会」。北海道から九州まで全国各地の会員39社で構成する研究会トップの松本信夫会長。一見、こわもての顔だが、話してみると、とてもやさしく温厚な人。法面業界のリーダー的企業の社員として、全国各地を渡り歩いてきた。植物発生材のリサイクル材や森林表土などを活用し、地球環境への負荷を少なくし、循環型社会の形成とその地域の生態系に配慮した法面緑化工法の技術向上と普及活動に取り組む松本会長に、安全・安心な地域づくりに欠かせない植物誘導研究会の現状や活動状況等について聞いた。

◎貴団体の紹介について

当協会は平成12年7月の設立です。植物誘導吹付工法は、『植物発生材のリサイクル材や森林表土などを用いて植生基盤を造成し、自然侵入を促す』という基本理念に基づいて、会員全員が日夜、本技術の技術研鑽と市場開拓に取り組んでいます。

地球環境に対して負荷を極めて小さくするよう廃棄物を有効利用して、循環型社会の形成に寄与するとともに流域に自生する植物の成立を促して外来生物による被害防止が目的です。さらに、伐採木をチップ化して緑化工にリサイクルすることで Co2 の排出を

削減し、ひいては地球温暖化防止にも貢献しています。

会員は九州支部をはじめ、北海道、東日本、近畿、中国、四国に支部があり、正会員39社、特別会員2社、賛助会員1社の構成となっています。活動については、年1回の技術講習会や官公庁・コンサルタント・民間企業へのPR活動のほか、工法の説明会、現場の追跡調査の実施と報告なども行っています。



◎植物誘導研究会が推進する法面工法について

植物誘導吹付工法は、工事に伴って発生した枝葉、幹、根を産業廃棄物として処理するのではなく、吹付可能なチップに現地で破碎し、植生基盤として使用す

るリサイクル緑化工法です。また、無播種施工が可能なために在来植物による緑化にも適した自然侵入促進工法の一つであります。

◎公共事業や民間への工法普及はどのように

ダムの法面や道路の法面等への地域生態系の保全に配慮した法面緑化工として PR するとともに、伐採木の未分解チップを利用したリサイクル緑化工法としても PR しています。



◎植物誘導吹付工法の実績などは

平成27年度の施工累計が921件で、24万7,800m²となっています。九州地区の代表的な施工現場としては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所発注で、佐賀県佐賀郡富士町の「付替国道西畑瀬地区法面保護工事」があります。播種したコマ

ツナギ（低木）が法面全体を覆い、そこに周辺の自生種が侵入し、多様な植物が混在しており、地域生態系の保全に配慮した法面緑化工の施工現場となっています。

播種工による樹林化(道路法面) ◆佐賀県

- 工事場所：佐賀県佐賀郡富士町
- 工事名：付替国道西畑瀬地区法面保護工事
- 発注者：国土交通省九州地方建設局嘉瀬川ダム工事事務所



◎熊本地震で土砂崩壊現場が発生していますが、協会としての対応などについて

植物誘導吹付工法は、植生基盤として伐採木のチップを使用できるので、阿蘇くじゅう国立公園内の自生種による緑化を図ることで「地域生態系の保全に配慮した法面緑化工」として活用できることを PR していきたいと思っています。

◎趣味、特技など

以前は、船釣りもしていましたが、最近は実家や近場の防波堤などで、気楽にチヌ釣りをしています。北九州や宮崎方面の釣り場もいいですよ。休日には、小さいバイクでツーリングにも出かけますが、この前は山口県萩に行ってきました。出身県である熊本の阿蘇方面にも行きたいと思っています。

「団体長のプロフィール」



- ・出身地 熊本県山鹿市
- ・生年月日 昭和29年5月生まれ
- ・会社名 日特建設株式会社九州支店
執行役員支店長
- ・前任地 名古屋支店
- ・主な団体役職
(一社) 日本アンカー協会九州支部副支部長
(一社) 全国特定法面保護協会九州地方支部副支部長
フリーフレーム協会九州支部支部長